



#5 What I Learned in Comedy Club (コメディクラブで学んだこと)

初めてコメディクラブに行ったのは20年ほど前のことで、場所はニューヨーク・マンハッタンです。パンチラインというトムハンクス主演の映画を観て、生のスタンダップコメディを見てみたいと思ったのがきっかけです。

コメディアンの仕草や有名人をネタにしているときは、何を話題にしているかは想像がつきますが、ジョークの英語はほとんど分かりませんでした。

2度目も同じようなものです。時差とアルコールのせいで、目を開けているのも辛かったのを覚えています。留学生と思しき日本人女性がこれ見よがしに(本人にそんな気持ちはまったくなかったでしょうが)高笑いしているのを、羨ましさや悔しさの入り混じった複雑な気持ちで見えていました。

あれから20年。当時は雰囲気だけ味わえば十分だと思っていましたが、もう少し英語を理解して笑えるようになりたいとこれまで密かに夢を温め続けてきました。コツコツと英語の勉強は積み重ねてきたつもりです。英語のニュース番組もよく視聴します。今回は満を持して臨んだので言いたいところですが、残念ながらあえなく惨敗でした。ジョークの理解という点では前回の方がまだマシだったくらいです。ネイティブが普段使う言葉を中心にもっと勉強する必要があることをあらためて痛感しました。

ダメなりに今回学んだことが一つあります。これからコメディクラブに行ってみたいと考えている英語学習者のために、事前にこれだけは準備しておいた方がよいと思うことをご紹介します。

コメディクラブでは司会者が初めに観客とやり取りしながら場を盛り上げていきます。観客の誰を指名するかは司会者の気分次第です。最前列やカップルなどは指名されやすいです。今回は司会者の話しが長く、最初のコメディアンが紹介されるまで15分以上は続いたと思います。よく素人相手に連続して笑いをとっていくものだと感心させられます。その大爆笑連続の熱気を冷やす訳にはいきません。誰を当てたらいいか司会者も心得ているとは思いますが、事故がないとも限りません。なるべく目を合わさないようにしながら、ずっと答えを考えていました。

最初に聞かれることは決まっています。どこから来たのかや、カップルなら付き合
って何年か等です。



質問された内容が分からないからと言って、もう一度言ってください等は絶対にNGです。そんな答えをしたら居づらくなるのは間違いありません。今回学んだことは、当てられたら何と答えるかを事前に考えておくことが大事だということです。何を質問されようと一方的に想定される質問の答えを全部言ってしまうとよいと思います。機会があれば、是非マシンガントーク炸裂のあの熱気を直接肌で感じてみてください。

次回ロンドンのコメディクラブに行く機会があれば(もうないとは思いますが)、次のような答えを準備して臨みたいと思います。

Q) Where are you from?

A) Guess! Same as Tony, Tonikaku Yasumura

Q) ?

A) He is a Japanese comedian who has appeared on BGT. He is a treasure of Japan.

イギリスで安村のことはかなり有名だと聞きました。安村のことをご存知ない方は
[こちら](#)